

そうすると $141 \text{ 度} - 135 \text{ 度} = 6 \text{ 度}$ になります。

$60 \text{ 分} \div 15 \text{ 度} = 4 \text{ (分)}$ になり $4 \times 6 = 24 \text{ (分)}$ になります。

ですから 日本標準時より 24 分早くなり、正午 (正中) は 11 時 36 分になります。

Q : 正午の意味を教えてください。

A : 明治の初期までの月、年は月を観測した陰暦の暦でした。

時間は世界中太古より太陽を観測して時間としました。これは日時計で簡単に観測できたからです。

太陽を観測すると、毎日日の出、日没が異なるし、場所によって変わります。ところが 365 日全く変わらないのが太陽が最も高くなる点、即ち日時計の棒の影が一番短くなる時間は毎日一定しています。

これを「正中」といいます。

もう一度 十二支をやります。先ほどは方位でしたが、今度は時間です。

江戸時代は十二支で時間を決めていました。24 時間を十二支ですから 1 刻とは 2 時間になり、さらに 1 ッ、2 ッと数えるのは 1 ッを約 30 分とします。即ち江戸時代は 30 分が最小単位になります。

先ほどの子午線を考えてください、「子」は真北時刻は真夜中零時、

鼠小僧次郎吉が「子の刻参上」といえば真夜中の零時です。

草木も眠る「ウシミツドキ」(丑 3 ッ時)を意味し午前 2 時半位です。

さて反対にある「午」は 12 時をさします。

すなわち日時計の棒の影が最短になるのを「正中」といいます。

12 時を指すのは「午の刻」 正中と午の刻が合体すると「正午」になり、江戸時代はお城の時計係は太鼓を敲いて正午を知らせました。正午の前、後は午前、午後です。

Q : それでは北海道の東端と、西端になる沖縄の与那国島では大分違いますね？

A : 東端を択捉島は東経 149 度とすると東へ 14 度、56 分の差が生じ、西端 与那国島は東経 123 度、12 度の差、48 分のズレです。

日本全体ですと東端と西端では 1 時間 44 分差が生じます。

この程度であれば許容範囲とし明石 135 度を基準にした日本標準時を使っています。

Q : 大きな国はどするのですか？

A : 世界最大の国は東はベ - リング海から西はバルト海まで地球の半分を占めるロシア 11 のタイムゾーンがあり、アメリカが 4 ッのタイムゾーン、オーストラリアは 3 ッのタイムゾーン、お隣中国も奥地が広いですから当然タイムゾーンがあるはずですが、昔から 120 度線の時間で全国を統一しております。

